

令和5年度 自己評価報告書

	成果と課題	今後の取組
<p>確かな学力</p>	<p>○授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協同学習を取り入れた「若桜学園学びのスタイル」の研究は、研究主任を中心に計画的に進めることができた。</li> <li>・自主的に授業を公開し、評価し合う取り組み「OJT」(本校独自の名称)を推進し、授業改善、初任者の育成、ベテラン教師の持つ指導力の伝達等、成果を上げた。</li> <li>・児童生徒アンケートの質問項目「学習したことがよくわかる」の肯定的評価が、昨年度の89%から96%へと増えた。「先生はよくわかるように教えてくれる」で99%と生徒の評価は高かった。保護者アンケートでは「お子さんは、学習内容を身につけている」で79%、「お子さんは、授業をわかりやすいと言っている」で62%と低く、昨年同様に児童生徒との差が大きかった。</li> <li>・タブレットは、電子黒板やデジタル教科書などと合わせて、有効に活用することができた。教職員アンケートの「ICT機器を授業で有効に活用している」も昨年度の71%から85%へと大きく増えていた。</li> </ul> <hr/> <p>○家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒アンケートの「宿題(家庭学習の習慣)が身につけている」で肯定的評価が85%、保護者アンケートでは63%、教職員アンケートでは60%であった。子どもと大人の認識に大きな差が見られた。(毎年の傾向となっている。)</li> <li>家庭学習の時間は、全国平均より少ないという結果が出ている。</li> <li>・4年目となった「探究」の取組は、若桜学園の子どもたちに定着し、主体的に深く学ぶよい機会となっている。年々、内容が充実してきており、多様で、質の高い作品が出されるように</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協同学習については、理論研修、実践紹介等を行い、職員全員の共通理解を図っていく。</li> <li>・協同活動による成果を検証し、より効果的な「若桜学園学びのスタイル」をめざして、研究を進めていく。</li> <li>・協同学習の礎となる互恵的な人間関係、支え合いの人間関係を育む仲間づくりにも力を入れていく。</li> <li>・OJTは定着してきており、お互いに授業を見合う雰囲気はできているので、参加者を増やす日程調整、実施方法等を工夫していく。</li> <li>・学習形態、話し合いの方法、ICT機器の活用の仕方などを工夫していく。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の理解・協力を得ながら、児童生徒の家庭学習への意欲を高める。</li> <li>・eライブラリを保護者に紹介し、家庭学習での活用を図る。</li> <li>・タブレットの家庭での有効活用を推進する。</li> <li>・「探究」の取組を継続し、子どもたちの活躍の場をととして、発表会、コンテストなどへ積極的に参加する。</li> </ul>

	<p>なった。理科や社会の発表会で、入賞する作品も増えている。</p>	
<p>豊 か な 心</p>	<p>○あいさつ・言葉遣い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒アンケートの「あいさつを自分からできている」は90%であった。児童生徒会が朝のあいさつ運動を行っており、児童生徒の意識は高まっている。一方、保護者は「お子さんは、場に応じてきちんとあいさつができる」で77%、教職員の「児童生徒はあいさつや言葉遣いがよい」は56%と低く、意識に差がみられる。教職員の「児童生徒があいさつを進んでできるように指導を工夫している」が、昨年度の88%から78%へ下がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒会の朝のあいさつ運動をはじめ、取り組んでいるPR活動を継続していく。</li> <li>・地域学校協働活動の支援ボランティアの方との交流の機会をとらえて、あいさつや言葉遣いについて、指導する。</li> </ul>
	<p>○読書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の確立とメディアコントロールについて取り組む「ハッピーすこやか週間」の項目に「読書」を加えた。約半数が、自分の設定した読書時間を達成していた。</li> <li>・児童生徒アンケートの「読書をよくしている」が71%で、昨年65%から少し増加した。</li> <li>・教職員の「児童生徒の読む本の冊数が伸びるよう、計画的に声かけや指導をしている。」が64%と低い数値であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動はさかんに行われているので、教職員からも読書を促す働きかけをしっかりと行っていく。</li> </ul>
	<p>○ルールや決まり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒アンケートの「学校のきまりや約束事をよく守っている」で98%、保護者の「お子さんは、社会のルールを守って生活してる」で92%、教職員の「児童生徒は社会のルールを守って生活している」で96%が肯定的な評価をしている。毎年高い数値を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの決まりを守ろうとする意識は高い。学習に取り組む姿勢やいじめの未然防止にもつながるので、継続して指導していく。</li> </ul>
	<p>○仲間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色別縦割り班（1年生から9年生までの全校児童生徒を4つの色別班に分けている）で、全校遠足、運動会、マラソン大会、全校遊びなどで縦割り活動を行った。本校の伝統となっている色別活動は、異学年がつながり、リーダーと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色別縦割り班は、取組の内容や目的に合わせて、有効に活用していく。班編成については、学年の人数、全体の人数を考慮して、調整していく。</li> </ul>

	<p>なる学年の児童生徒の自己有用感を高め、諸活動への主体的な取り組みにつながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒アンケートの「学校、学級には仲のよい友達がいる」は、肯定的評価が97%、「他の学年の人とも遊んだり話したりしている」で91%であった。その他、「周りの人とつながり、高め合おうとしている」が昨年度の86%から94%へと増加していた。ふだんから縦割り班活動をたくさん取り入れ、異学年交流を行うことで、全校での仲間づくりができた。</li> <li>・児童生徒アンケートの「先生は、困ったことがあったら相談に応じてくれる」が94%、「困っている友だちがいたら助けている」が98%、教職員の「いじめの早期発見を心がけ、適切な対応ができています」が100%であった。これらに対し、保護者の「学校は、いじめに対して早期発見・対応ができています」では、「わからない・評価しづらい」が45%であった。昨年度の61%からは減少している。「学校は、保護者が教育活動を理解する機会を多く設けている」で75%（昨年度68%）であった。</li> <li>・昨年度は、10周年記念行事を開催したため人権教育参観日を設けることができなかったが、本年度は実施し、保護者や地域の方に、学校の取組や児童生徒の様子を伝えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼少時から一緒に過ごし、気心の知れた間柄でも、自分の想いをきちんと言葉にして相手に伝え、よりよい人間関係作りをすることの大切さを、縦割り活動や日々の活動の中で理解させていく。</li> <li>・いじめアンケートを定期的の実施し、いじめ防止、早期発見に努める。</li> <li>・学校からの情報発信や保護者と学校の連携を継続して進めていく。</li> </ul>
	<p>○学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会では、「洗濯リレー（上学年の児童生徒が下学年の小学生を抱き上げて洗濯物を干したり取り込んだりする競技）」、学習発表会では「全校合唱」を4年ぶりに行うことができた。</li> <li>・保護者アンケートの「お子さんは、学校行事を楽しみ、積極的に参加している」で95%、教職員アンケートの「児童生徒は学校行事を楽しみに積極的に参加している」で100%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを明確にし、その達成に向けてどのような活動を仕組んでいくのか考え、よりよい活動を目指して改善を加えていく。</li> </ul>
<p>体 づ く</p>	<p>○基本的生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスタイル自己点検を、4月と11月に実施した。生活習慣の課題を分析し、学級、専</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生活化委員による朝食、睡眠、家庭学習開始時刻の啓</li> </ul>

り	<p>門委員会、地域、保護者と連携し、生活習慣の改善に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハッピーすこやか週間」を年3回実施した。期間は、第1回、3回を2週間、第2回を3週間とした。第2回実施後、目標としていた生活習慣の改善ができたという児童生徒が多くいた。</li> <li>・小学生の早寝の割合が減少した。中学生は、「23時まで寝る」割合は増加したが、「23時以降」が4割強いた。</li> <li>・1日にスマホ、パソコン、タブレット、ゲームに触れる時間「2時間以上」が中後期ブロックで増加傾向にある。</li> </ul>	<p>発活動（アンケート、掲示物、呼びかけ等）を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかさこども園との連携、保護者への啓発を継続して推進し、児童生徒の生活習慣の改善、自己管理能力の育成に取り組んでいく。</li> </ul>
	<p>○体力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり委員会で、レッツラン（1～6年）、昼休憩の全校遊び、1ミニッツエクササイズなどの取組を年間を通して行い、児童生徒の運動に対する意識を高めることができた。</li> <li>・積雪の関係で昨年できなかった小学生の放課後スキー教室（クロスカントリー）を実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり委員会の取組に、走力、投力を意識したものを取り入れる。</li> <li>・放課後スキー教室は、積雪量に左右されるが、本校の特色ある取組として、継続して実施していく。</li> </ul>
	<p>○食育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり委員会による「完食デー」の啓発活動により、意識する生徒が増え、完食できるクラスが増えた。</li> <li>・学年ごとに季節や、地域の食材を考えた「おすすめ献立」を実施した。</li> <li>・朝食の効果や内容についての指導や、掲示物による紹介を年間を通して行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残菜率の目標達成に向け、体に必要な栄養、食材を大切にすることなどについて指導していくとともに、適量を提供できるよう献立面でも気を付けていく。</li> </ul>
若桜から学ぶ	<p>○総合的な学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生の「若桜子どもシンポジウム」は、役場、議会、警察等の方に参加していただき、「よりよい若桜町を目指して」をテーマに提言を行った。参観日の授業として開催したので、6年生保護者に見ていただくことができた。また、学校評議員、子どものための学校づくり協議会委員の方にも案内し、数名の参加をいただいた。</li> <li>・7年生は、昨年度の「若桜子どもシンポジウ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生の修学旅行、7年生の広島平和研修、8年生の職場体験、9年生の修学旅行は、総合的な学習の中に計画的に組み入れ、それぞれのねらいを達成していく。前年度の取り組みを次年度に生かし、今後も本校の特徴を生かした教</li> </ul>

<p>ム」で提案した「階段アート」を中之島公園に設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8年生の職場体験は、町内8事業所に協力していただき、3日間の日程で実施することができた。(昨年度は2日間)</li> <li>・ 9年生が、「若桜町おこしプロジェクト」で、若桜の食材を活用したメニューを開発し、商品化することができた。また、「ふるさとキャリア教育CMコンテスト」に参加し、入賞した。</li> </ul>	<p>育活動として位置付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若桜をよく知り、若桜をPRしていく活動を、全校で推進していく。</li> <li>・ CMコンテストは、小学生の参加も検討する。</li> </ul>
<p>○特色ある学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者アンケートの「学校は、特色ある教育活動を行っている」で79%、教育方針を保護者にわかりやすく伝えている」で88%、「学校は、児童生徒や学校の様子を、保護者に伝えている」で80%であった。</li> <li>・ 教職員アンケートの「情報発信に努めている。」は昨年の69%から85%に増えた。</li> <li>・ 地域学校協働活動は、昨年度を上回る延べ140名を超えるボランティアの方の支援があり、本年度も、学習や校外活動を充実させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若桜学園の取り組んでいる特色ある教育活動を、保護者、地域へと伝える有効な方法を取り入れていく。</li> <li>・ 地域学校協働活動の内容や予定を地域にPRし、理解と協力を求めていく。</li> </ul>